

放射能汚染が及ぼす「生活リスク」に関する研究 ～小中学校および保護者の意識・行動調査を中心に～



西崎伸子、菊地芳朗、丹波史紀（社会・歴史学系）
照沼かほる（外国語・外国文化学系）、中川伸二（法律・政治学系）

【問題意識と概要】

福島第一原子力発電所の水素爆発および、その後の放射能物質の外部流出が、今後長期的な環境汚染を及ぼすことは明らかである。しかし、3月12日以降、放射能物質による短・中・長期的な影響について、福島県民が解釈可能な内容で与えられる情報は極端に少なく、県民の多くは不安な生活をおくらざるを得ない状況におかれている。また、国（県）が決定する、さまざまな基準、規制および解除、あるいは放置が、地域社会に暮らす人々の十分な理解と合意形成がないまま進められ、個人や地域社会に多くの混乱を引き起こしている。

【目的と方法】

福島第一原発事故による放射能汚染が及ぼす「生活リスク」への対応について、地域社会に及ぼす影響の実態を、フィールドワークによって明らかにし、記録したうえで、今後想定される社会変容を理解するための基礎資料を得ることである。

【結果と経過】

結果①子どものリスク回避が軽視される経緯のとりまとめ・分析

* 福島市内の小中学校数校および保育園の放射能関連対応に関する参与観察結果を時系列的に整理した。
(データ公表に関しては慎重さを要するために今後検討する。)

* 市民イベントへの参加、協力
2011年5月29日市民団体主催「さよなら放射能まつり」参加
2011年7月17日市民団体主催「生活村」参加
2011年7月25日福島乳幼児・妊産婦ニーズ対応プロジェクト主催のママ茶会への参加
2011年7月下旬 地域と連携した放射能汚染マップの作成・配布

結果②「保育園・学校と連携した調査の実施」

* 土壌調査の実施(福島市内小学校&保育園との連携)
* 除染の実施(福島市内保育園との連携)
(データ公表に関しては慎重さを要するために今後検討する。)

結果③ 市民団体と連携した活動

千葉県鴨川市大山支援村との連携により、保養企画第一弾を実施し、今後のニーズについて、聞き取り調査をおこなった。
(データ公表に関しては慎重さを要するために今後検討する。)



千葉県鴨川市大山支援村へ向かうバス



福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト緊急報告会・基調講演

結果④「保養企画のニーズ調査と実施」

結果⑤外部者への情報発信

2011年5月7日「東日本大震災からの創造的な復興に向けて：研究者は何かができるか」研究会発表(東京大学駒場キャンパス)
2011年6月13日「放射能汚染と子どもたちの生活－福島からの報告」於：関西学院大学 東京丸の内キャンパス
2011年7月13日福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト緊急報告会・基調講演「福島県における子どもたちの状況報告と対策－地域社会と不安のあいだで」於：宇都宮大学峰キャンパス
2011年7月24日明治学院大学国際平和研究所研究会「なぜ子どもを避難させないのか：福島第一原発事故にともなう「外」からの声、「内」からの声」於：明治学院大学白金校舎
2011年7月25日明治学院大学「平和学」授業「福島第一原発事故以降の子どもたちの生活環境」於：明治学院大学戸塚校舎

* その他多数

【まとめと今後の展望】

- 放射能汚染をめぐる園・小中学校の状況は、刻々と変化している。
- 今後は、これまでの調査研究の結果を分析するとともに、調査研究だけでなく、地域と連携しながら、いかに実践活動を進めていくのかという課題にとりくみたい。
- 調査結果の公表については、センシティブな問題であり、慎重におこないたい。
- 結果で示した、①については継続調査を実施予定。②④は秋以降に他大学との連携を検討しながら、プロジェクトを本格始動させる。③についても継続予定。④については、外部からの要望が多数あることから、今後も研究に関連した報告および情報交換を実施する予定である。

【お問い合わせ先】

960-1296 福島市金谷川1 福島大学研究協力課
TEL: 024-548-8009 E-mail: kyoudo@adb.fukushima-u.ac.jp